

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600195		
法人名	社会福祉法人 博愛会		
事業所名	グループホームくちない		
所在地	岩手県北上市口内町久田25		
自己評価作成日	平成29年1月13日	評価結果市町村受理日	平成29年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&Ji_gvosvoQd=0390600195-00&Pr_ofQd=03&Ver_si_onQd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成29年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の意思を尊重したお世話をするよう、心掛けています。出来る事はやっていたり、家事もお手伝いしていただきながら家族のような生活が出来るよう考慮しています。居室については、自由に生活用品を持ち込んで頂き、自分の部屋という感覚を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者の気持ちを尊重した、支援を心掛けている。入居者が出来ることは、見守りを続け、時間をかけて、職員の手出しは出来るだけ控えた支援をしている。職員と入居者は、共に生き生きとして暮らしており、和やかに生活されている。広い共有スペースには、畳の小上がりがあり、ひな飾りが置かれている。昼食後は、居室に戻る方、畳の部屋で午睡を取る方とあり、その方の希望に沿った支援をしている。職員間の連携は、極めて良好で、ここ数年職員の退職者はいない。年数の若い職員も、わからないことは先輩職員に聞き、適切な指導を受けて業務に励んでいる。ホームの玄関前は、三差路交差点で交通量も多く、バス停もあることから、職員は入居者の動向に常に気を配り連携を取っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を、出勤簿の裏表紙に貼り付け、毎日見えるようにして、共有している。	理念は、法人で決めたものを使用している。ホールに掲示しているほか、出勤簿の裏表紙に添付しているが、将来的には、ホーム独自の理念もあればよいと考えている。職員会議の時には、読み合わせをして、共有をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域内にある、保育園、小学校から慰問に来て頂いたり、運動会や文化祭、お祭りに参加させて頂いている。	子供たちとの交流、地域の方々からの歌、踊りの披露、町民運動会からの招待、浮牛(ふぎゅう)の里(昔お城があった)祭り、鬼剣舞、大道芸人などがホームを訪れて交流している。家族が野菜などを届けてくれるなど、交流の幅が広がってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、地区の集まりなどで、いつでも情報提供できることを伝えている。その場で、認知症についての質問や、相談を受ける事もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の定期開催で、状況を報告したり、質問や意見をいただいている。	委員からは、お盆、正月などに帰宅する方はいるのか、ホームの(法人を含む)夏祭りをもっと宣伝したほうが良い等の声が出ている。ホームの広報は、家族、推進会議の委員に配布しているが、地域にも回覧できないかとの意見も頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、意見を伺っている。また、市の福祉課との会議にも参加させていただき、情報交換している。	市福祉課との会議では、各施設の待機者情報、職員不足への対応などを話し合っている。市役所との連絡等は、法人がまとめて行っているため、ホームとしては、不足部分について電話、メール、ファックス等で行っており連携は取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は、夜間に限定し、ベットの柵は一カ所に限定している。職員会議では、拘束の実例などをあげて、防止につとめている。	ベットの柵は、起き上がり時に掴まる必要があると考えて、家族の了解のもとに使用している。言葉による拘束は、本人の気づき、他職員の指摘で注意をしあっているが、難しいと感じ、研修を繰り返している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で、事例などをあげて、周知している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームくちない

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施する予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくりと時間をかけて説明し、疑問や、不安が残らないよう、じっくりと丁寧に説明するよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加していただき、意見を伺っている。面会時や、ケアプランの確認時などにも、伺っている。	家族からは、「もっと体を動かすことをしてほしい」、「介護用品の請求は利用料とは別に支払いたい」などの意見が出ている。意見は、ケアプランの作成時にも聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員会議で意見、要望を聞きかきを設けている。普段でも、意見、要望を話しやすい雰囲気を作るよう努めている。	加湿器を増やしてほしい(対応済み)、掃除機の修理、居室のドアが開きにくい、勤務の交代(職員間に対応済み)などが出て、改善に向けて取り組みがされている。通年で職員不足の意見が出ている。常に職員の意見を聞く体制が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の風通しを良くし、お互いが話しやすい環境をつくり、コミュニケーションがうまくいくように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や、研修に参加する機会を設けるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の施設の研修会や、交流会に参加し、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	和やかな雰囲気をつくるようにし、ゆっくりと話しを聞くようにし、不安にならないよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接の際は、話しやすい雰囲気を作るよう配慮しながら、ゆっくりとお話を伺うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスや、グループホームの特徴を説明したうえで、グループホームの利用で良いか確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	命令口調などは避け、入居者の意に反した処遇はせず、同意をもとめ、納得して頂けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回、請求書、領収書を郵送する際、様子を知らせる手紙を同封している。また、面会時に様子を伝えたり、年末年始、お盆に里帰りの提案をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの病院、理髪店などは、継続して利用できるようにしている。	ホームから特養ホームに移った方の面会に行ったり、田んぼを見に家に行くことを支援している。通院や床屋への外出は、家族対応で行っており、帰りに外食をしたり、家を見たりして帰ってくる方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、会話をとりもったり、関係が悪いところは、距離を置く等、配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他のサービスに移行した家族と連絡をとったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの情報を参考にし、話し合いながら対応している。	意向の把握が困難な方が2人いるが、昔やっていたことの話から、緊張がほぐれたことや、家族の助言で、会話が出来たりすることもある。職員は、申し送り時にメモや口頭で情報を共有しながら、職員会議で全員の情報を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報を参考にしながら、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	声掛け、様子観察で出来る事や、嗜好を把握出来る様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実行している。	ケアマネジャーが中心になって、家族、職員の意見や、申し送りノート、介護記録を使い、計画を立てている。家族からの希望は、現状を維持させてほしいとの声が多い。6カ月ごとに見直しをしているが、体調に変化がある時には、随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んで行こうと考えている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームくちない

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域内にある、保育園、小学校との交流をしている。地元の産直に買い物に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者は、入居前からのかかりつけ医を継続して利用しており、通院についても、必要に応じて、援助している。	入居に伴い、かかりつけ医を変更した方が1人いたが、他の方は今までの医師に継続して、家族対応で通院している。家族が遠方のため、2人の方はホームで支援している。通院には、最近の状況を家族に口頭で伝え、バイタルノートを持参していただいている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と連携し、情報の共有は出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明し、家族、本人の意思確認を行っている。指針を使って職員間で方針を共有する。	法人の理事長が医師であり、ターミナルへの理解は深い。過去に1件の看取りを行っており、7人の入居者の家族から看取り希望が出ている。市内中心部から離れていることもあり、この地域において看取り介護への要望は、多くなると考えられる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まだ十分でないため、訓練していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は実施しているが、もっと回数を増やしていきたい。地元の方に、防災協力員をお願いしている。	避難訓練は、法人施設と合同で行っている。9月1日の避難訓練では、通報訓練、避難方法、炊き出し訓練を行った。消防の団長、防災連絡員(近所の方5人)が参加して夜間想定で行った。来年度は、夜間の訓練を計画している。	昨年のステップ項目でもあったが、取り組みに遅れがあり、ホーム単独の訓練を行い、状況を把握しておくことも必要である。訓練には、推進委員にも参加をお願いして、助言をいただきながら今後の訓練に活かすことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調や、指示など、威圧的な声掛けはしないこととし、よほど危険なこと以外は、本人の意志を尊重するようにしている。	外出傾向の強い方には、特に玄関前の段差で転ばないように、必ず職員とともに行動するようにしていることや、日に数度の行動にも対応をしている。トイレへの誘導や失禁などの際には、本人の気持ちを傷つけないよう配慮して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞き出すようにし、最終決定は、本人にしてもらうよう、援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いはしないで、本人の希望、ペースに職員が合わせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隣の特養に来ている、床屋さんに行ったり、行きつけの美容院に行く支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ったり、配膳、後片付けなど、職員と入居者が一緒に行っている。	訪問時、食材刻み、下膳に入居者の参加が見られた。調理に参加することが習慣になっている方は、声掛けがなくても自主的に参加している。全介助の方が1人いるが、職員も入居者と同じ食事をしている。食事後の服薬は、必ず2人の職員で声に出して確認し合って手渡しするようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を取得している職員が、栄養バランスを考えたメニューを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員が、毎食後の歯磨きが習慣になっている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームくちない

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握や、トイレ誘導で支援している。	排泄は、薬に頼らず、食物繊維の多い食事に対応している。食事後の歯磨きと並行して、トイレに誘導している。夜間も見回りで対応、支援している。夜間は、居室でポータブルトイレを使用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、便通を良くする食物の提供、ラジオ体操など実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	程良い間隔で入って貰えるよう、本人の希望を聞きながら、時間等を決めている。	3日に1度は入浴をするように支援している。午前中は、11時から1人、午後は14時から2人の方が入浴しており、遅番の職員が着替えの段階から対応している。拒否の強い方が1人いるが、無理をせず、本人の気持ちを大事にしている。入浴剤を使って楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望を聞き出すようにし、最終決定は、本人にしてもらうよう、援助している。意志を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職と連携し、服薬の状況を把握し、管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に、出来る事を見だし、それに沿った援助をするようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により、ドライブ、外食の機会を設けている。	天候に左右されるが、法人施設周囲を散歩したり、ウッドデッキでの日光浴、週3回の食材の買い出しに同行している。また、季節ごとにドライブに出かけ、外食を楽しんでいる。毎日ラジオ体操をしたり、ホームの中を歩いている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームくちない

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者には、御家族に同意していただいて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭に近い雰囲気作りを大切に、落ち着ける環境作りに留意している。	広いホールに、テーブルやいすが置かれ、炬燵のスペースでもゆったりとくつろぐことができる。畳のスペースは、ひな飾り、神棚、レク材料が置かれ、昼食後は4人分の昼寝の布団が用意されていた。小上りの下は大きな引き出しがついており、収納スペースとして使われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールから離れたところに、ソファを設置。また、テレビの側にもソファを設置して、一人になれるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、備え付けはベッドのみで、ダンス、テーブル、TV、衣装ハンガー等は、好みに応じて、個々で準備していただき、個人の部屋をつくってもらっており、全く別のレイアウトになっている。	ホームの備え付けは、ベッド、エアコンであるが、ベッド下は収納用の引き出しになっている。テレビを持ち込んでいる方が2人いるほか、位牌、盆栽、写真が飾られている。茶わん、汁椀、カップ、箸は使っていたものを持参している。居室の掃除は、職員と一緒に毎日行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要以上の表示をしないなど、少し考える要素をのこしている。		